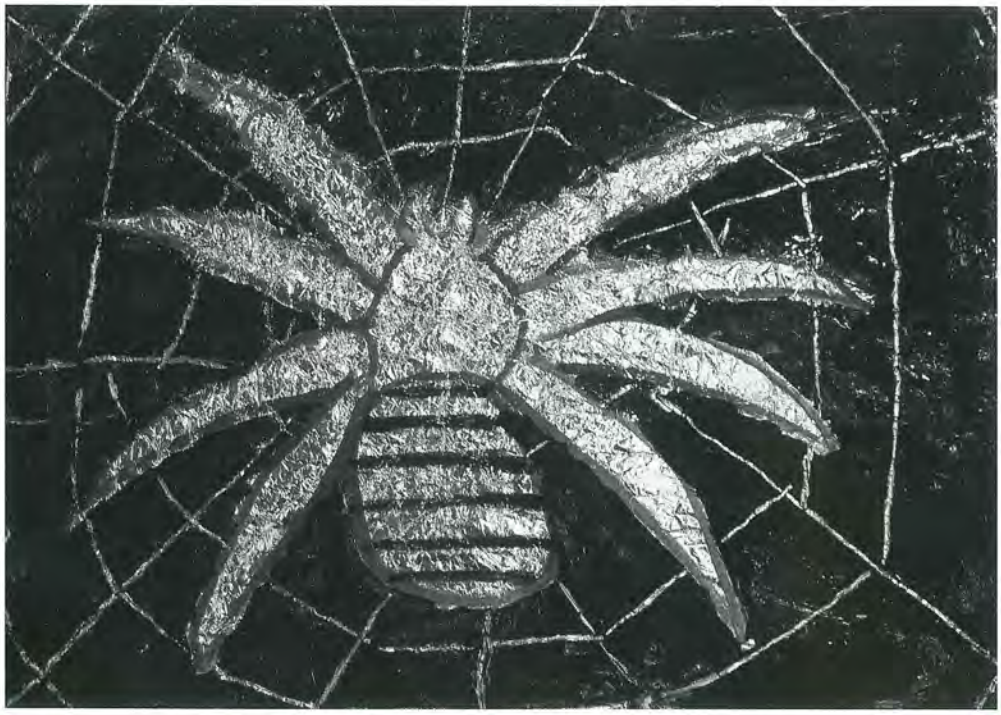
第22号

さくら

題字 足立区長 近藤 やよい

足立区民生・児童委員協議会だより

発行
足立区民生・児童委員協議会
会　長　中田貢弘
編　集　広報部会
発行日　2010年3月1日
〒120－8510
足立区中央本町1－17－1
TEL　03－3880－5111



花畑第一小4年　板子基成　作「くらやみの中のぎんのくも」

目　次

東京都民生委員・児童委員大会 2
全員食事会 3
子育て応援団 4
介護ってなあに 5
中国帰国者 6
エンディングノート 7
さくらを読んで
編集後記 8

三宅島訪問記

中小企業ニュース主幹
村上ひろし

ANAで40分は近い。でも、就航率が3割では遠い。そこが三宅島。空港が火山ガス高濃度地区に隣接しているからです。その3割に恵まれて昨年11月、NPO足立フォーラム21（中田会長が初代理事長・現顧問）の三宅島訪問に同行しました。

2000年9月、火山予知連絡会が全島民約3,800人の全員避難を発表。うち57世帯、107人（三宅村資料）が足立区で2005年2月までの4年半、避難生活を余儀なくされました。その間、足立区行政や社協、民協等の支援事業が行われました。

また、避難した人たちが組織した「足立三宅会」を陰に陽に支援したのがNPOでした。帰島した足立三宅会は、「三宅足立会」と改称して連携を保っており、その招待訪問でありました。

NPOの一行は、空港で歓迎を受けたあと、居住禁止地区や噴火泥流跡などを見学して、火山の脅威を実感。次いで、歓迎懇談会ではNPOから近藤足立区長、川尻東京都民生児童委員連合会長の親書を手渡し、三宅会側には村長が同席して、支援に謝意を表し、復興への「観光島づくり」を語りました。

NPOの一行は、島の復興に賭ける思いに励ましを贈り、相互の絆を確認していました。

（写真も村上氏提供）

第63回東京都民生委員・児童委員大会

—11月26日　文京シビックホール—

式典は国歌斉唱で始まり、平成20年10月より21年9月までの間にご逝去された、民生・児童委員25名に対する追悼の黙祷がありました。民生・児童委員信条を朗読後、主催者である佐藤広東京都副知事の挨拶、川尻禮郎東京都民生児童委員連合会長の挨拶がありました。

副知事より、規則表彰、特別功労、一般功労の各受賞者代表に表彰状贈呈1107名、連合会会長より、所管職員、団体職員の受賞者代表に感謝状贈呈35名があり、足立区では58名の受賞でした。続いて、来賓の祝辞、受賞者代表の謝辞、議長団による大会宣言（案）が朗読されました。内容は、「少子化、高齢化、人口減少という社会構造の大きな変化、地域のつながりの希薄化、安全と安心に暮らせる地域社会が求められ、住民と行政の架け橋である民生・児童委員の役割として、地域住民や地域包括支援センター、学校をはじめとした関係機関と連携していくことが必要。今後とも地域福祉の推進のため積極的に活動していく」との主旨で、宣言は原案通り拍手によって承認されました。

今回裏方でお手伝いした足立区民生・児童委員（一部）

2部は、昭島市民生委員・児童委員によるコーラスで始まり、続いて毎日新聞論説委員の野沢和弘氏による記念講演「障がいのある人もない人も暮らしやすい社会に」でした。野沢氏自身も障がい者を持つ親としての体験談、かつて一般の方は障がい者に対して偏見がありましたが、現在は認識も高まり、障がい者の就労も良くなっているそうです。映画、テレビ等のお話、またジョークを交えながらわかりやすく楽しい講演でした。　（広報／14地区　阿部美代子）

民生・児童委員各種表彰受賞者名簿　（敬称略）

全国民生委員児童委員連合会会長表彰

1　永年勤続単位民生委員児童委員協議会会長表彰　会長在任年数14年以上
7地区　瀬田敬一郎

2　永年勤続民生委員・児童委員表彰　在任年数17年以上
常東地区　林　喜子江　3地区　山田芳枝　11地区　遠山みな
9地区　中田輝子　15地区　宇佐美和子　毛利静代

東京都社会福祉大会会長表彰

民生児童委員在任年数9年以上10年未満のうち推薦された者

東綾瀬地区　清水あけみ

栗島小5年　元木仁美　作

東京都民生児童委員大会表彰

特別功労＝在職17年以上　江南・新田地区　飯塚　茂　19地区　牛久保満子　北村孝子

一般功労＝在職10年以上

常東地区
長塚敏子
幸田吉水
柘　孝子
3地区
片山　勇
富井幸子　※
4地区
大久保義子
5地区
髙橋淑子

北島小夜子
18地区
成川芳信
佐野地区
渡邊正勝
東綾瀬地区
山﨑秀夫
6地区
田中礼子
10地区
川島清美

川上重昭
松井志津子
秋葉和江
11地区
吉田昭一
髙須と志江
柿﨑征一
渡邊照美
7地区
森川雅徳
加藤喜代子
堀田　勳

9地区
八木沢八重子
田村信義
宝田治子
加藤マサ子
江南・新田地区
川田　浩
久保田正志
山谷久生
13地区
坂井潤子
髙野　季

鹿浜地区
大谷富夫
14地区
新井幸子
薊　登喜江
竹村ウメ
阿部美代子
小金井堅治
15地区
小川佳代子
杉本瑞惠
渕江地区

石井永子
竹の塚地区
川津マサ
芦川直實
古沼宏子
草間雅子
17地区
塙　君惠
大野慶治
石鍋昭男
東栗原地区
林　幸

穂積一良
髙橋弘一
渡邊千江子
遠山廣江
花畑地区
小柗郁夫
19地区
畔上美千代

※　退任者

足立区表彰

在職15年以上

常東地区
加藤鈴子

3地区
永倉　進
4地区
福田久子

篠﨑啓子
5地区
疋田規子
18地区

坂野正章
佐野地区
小林洋子
11地区

榎本のり子
梅田伍子
江南・新田地区
小泉貞廣

13地区
鈴木和男
清水幸藏
14地区

川島和子
15地区
藤波道子

花畑地区
千葉祐子

足立区民生・児童委員協議会全員食事会

全員食事会が平成21年11月10日、東京會舘にて午後6時より開会されました。当初は10月8日を予定していましたが、東京直撃の台風のため、やむなく一カ月遅れの食事会となりました。

司会は堀江慶子さん（アナウンサー）が担当し、軽快な話術で会場を盛り上げてくれました。区歌「わがまち足立」を全員で斉唱し、宮崎実行委員長の挨拶、19地区寺山委員の民生委員・児童委員信条朗読。そして、主催者を代表して中田連合会長の挨拶。その後、来賓を代表して、鴨下区議会議長からは、地域防災の重要性、この不況下での自殺者や虐待などにおける民生・児童委員の担う役割の大切さについてお話をいただきました。また、川尻東京都民生児童委員連合会長からは、赤い羽根共同募金での足立区の団結力の強さにお褒めの言葉をいただきました。

齊藤教育長の乾杯の後、安藤秀樹さんによるギターやピアノでのミニコンサート、「下町育ち」でお馴染みの笹みどりさんのミニコンサートと続きました。その後、民生委員の歌「花咲く郷土」を斉唱し、有賀福祉部長の中締め、中井東京都民生児童委員連合会事務局長の万歳三唱、浅井第六合同会長の閉会挨拶と続きました。

大勢の来賓の方々のご臨席を賜り、三年に一度の楽しい食事会が閉会しました。

（広報／15地区　北川富美子　記）

赤い羽根共同募金

10月1日、赤い羽根共同募金を竹の塚地区は、例年通りに竹の塚駅東口で午前7時半から10時近くまで行いました。小雨が降る中、大きな声でお願いし、顔見知りの人を見ると逃がさず近づきお願いしました。協力する気持ちがあっても1秒をも惜しむ急ぎの朝の時間帯ですので、申し訳なさそうにして駅に走って行かれる人も多く見かけました。中には若者グループが通り過ぎる際に、一人の青年の「赤い羽根に協力しようよ」という言葉に7～8人の若者たちが募金をしてくださり、胸に赤い羽根をつけて駅に消えて行きました。

募金活動を終えて担当の民生・児童委員のご主人が大切なお金なので無事に届けられるようにと、車で事務局まで送ってくださり、募金活動は無事終わりました。　（竹の塚地区　　古沼宏子　記）

＊足立区内20カ所の駅頭等で募金活動をしました。

7地区　瀬田敬一郎会長　歳末たすけあい運動へ寄付　　12月9日

第四合同7地区　瀬田敬一郎会長が、近藤やよい区長を通じて足立区社会福祉協議会の歳末たすけあい運動へ100万円の寄付を行いました。瀬田会長は、昭和57年に民生委員を拝命。平成6年より7地区の会長として活躍。平成21年に藍綬褒章を受けられました。これまで長く民生委員活動を続けられたことに感謝を込め、足立区に対し寄付されたものです。

民生委員制度創設90周年記念事業スローガン

広げよう　地域に根ざした　思いやり

子育て応援団――児童福祉の現状の認識

少子高齢化、家族構成の変化、有害情報の氾濫など児童を取り巻く環境が厳しさを増しています。すべての児童の幸福を図るために設けられた児童憲章には次のように掲げられています。「児童は人として尊ばれる。児童は社会の一員として重んぜられる。児童はよい環境の中で育てられる。」

花畑西小３年　小林耀　作

しかし、実際には虐待、不登校、いじめ、居場所、非行、外国籍の家庭の増加など諸問題が存在し、誰しもが幸福になる権利が妨げられているのが現実です。それらの解決を図るべく我々は、関連機関・地域社会と連携を取りつつ、迅速な対応と的確な判断が求められるなど、なお一層の努力が必要です。特に主任児童委員との連携・協力が大切で、諸問題の情報・認識を共有し、活動しなければなりません。我々部員も常に「助けて」の小さなサインを見落とさず、また受け止めることが大事だと思います。皆様の深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

（児童福祉研究部会　大室博　記）

タテとヨコの一貫教育校から

先日ある新聞にベテランの民生・児童委員さん方が学校からの質問に答える内容の記事が掲載されていました。少子高齢化や核家族化の進行の中で委員さん方の役割が複雑、多様なものになっていること、外国人住民とのコミュニケーションや高齢者虐待の問題、そして委員の後継者の問題など、ご苦労されていることもよく読み取れました。

私自身もこれまで、ひきこもりや、病気の母親の世話のため学校に来られない生徒、いつもあざをつくり、虐待と思われる家庭など、民生・児童委員さん方には様々な相談にのっていただきました。大勢の子どもを預かる校長としては、話を聞いていただける、あるいはその家庭を訪ねて行っていただいたということが、大変心強かったのを覚えています。

今、各家庭や学校だけではなかなか解決できない、困難な課題が少なくありません。今後とも一層、情報を密に交換し合いながら、次世代を担う子どもたちが安心して、安全に、そして快適に生活できる環境、地域を共に創っていかなければならないと思っております。

本学園の西校舎玄関に「ミニ・ギャラリー」を設け、児童生徒の作品を常時掲示しています。校長室共々どうぞ気軽にお越しください。

（興本扇学園　宇野彰人校長　記）

狂言鑑賞会

9月6日（日）庁舎ホールにて　和泉流一門による狂言を鑑賞しました。11地区の小学校5校・中学校3校、第11地区民生・児童委員、町会・自治会員、486名で満席になりました。

和泉流宗家から「狂言は言葉、動き、表情で楽しんでください」とのお話がありました。場面転換を知る方法についても、伝授されました。演目「痺（しびり）」と「附子（ぶす）」を見て、豊かな笑いのうずが広がり、ワークショップでは、観客全員が宗家の巧みな指導により自席で姿勢を整え「さらば」「さらば」の言葉を発声し合いました。「口伝」で伝授する日頃の稽古場面も披露し、私たちも伝統芸能を継承する厳しさを知ることができたと思います。

主催者側の今回の行事目的は、日本の伝統文化に興味をもってもらうことです。今回ご参加の老若男女の皆さんは、豊かな笑いを学ぶことができたと思います。

（主任児童委員　梅田伍子　記）

（主催）第11町会・自治会連合会・青少年対策第11地区委員会

民生委員・児童委員発

災害時一人も見逃さない運動

介護ってなあに――心の問題に関する最近の現状

新聞に掲載された記事から心の問題に関する最近の現状の一部を紹介します。

うつ病など心の病気に悩む人が増えています。そうした中で、厚生労働省が「第57回精神保健福祉普及運動」を開催しました。この運動でのメンタルヘルス維持のアドバイスを見てみましょう。

一人ひとりを主役に全国各地で開催

精神疾患を抱える方の福祉に関する理解を深め、地域社会の精神保健の向上を図ることを目的に昭和28年にスタートした「精神保健福祉普及運動」も第57回を迎えます。今回は10月5日から11日にかけて「ふれあう心　あふれる笑顔　一人ひとりが主役、これまでも、これからも」をテーマに全国各地で開催されます。

高齢化社会への取り組みを考える

高齢化が急速に進む日本において一人ひとりが地域でいきいきと暮らすためには「高齢者の心の健康」が欠かせません。今年度は、秋田市で実施の全国大会では、見逃されがちな高齢者のうつ病対策などを有識者と一般参加者がともに考えていきます。

今後も精神的健康の保持と重要性を啓蒙

厚生労働省及び各自治体は「精神保健福祉普及運動」を地域と協力しながら、精神疾患を抱える方の社会復帰と自立、社会参加の促進を図ると同時に、国民の精神的健康の保持と増進の重要性を啓蒙していく予定です。

私たち花畑地区の自主研修課題として東和保健総合センター地域保健担当馬場優子係長による「本当に恐ろしいうつ病に克つ」の講演をうかがいました。

2009年10月4日　読売新聞より一部引用

（広報／花畑地区　細井力造　記）

「死にゆく現場と宗教」の講演を聴いて

11月3日「文化の日」、足立区仏教会50周年記念講演会・記念法要が、東京芸術センター21階「天空劇場」で開催されました。田中雅博先生による「死にゆく現場と宗教」という講演で、バチカンやスウェーデンの状況をスライドで紹介しながら、日本の現状を考察し、宗教（仏教）のなすことをお話されました。田中先生は、栃木県益子の西明寺の住職で、普門院診療所の内科医でもあります。ご自坊（診療所）で、在宅介護支援、グループホーム、通所介護、介護老人保健施設を運営しており、医療従事者で、僧侶としても「死」を見つめておられる方です。診療所で認知症の方を看取られたことを事例に、インフォームドコンセント（自己決定権を優先するため、事前に説明し、情報を知らせ、同意を求めておく）の重要性を話されました。

「スピリチュアル・ペイン（自己存在の喪失に関わる苦しみ）において、『苦』は渇愛から生じ、思い通りにならないことである。苦の滅尽は、『平等』という悟りへの智慧であり、自分というものにこだわらないことである」とのお話に、「生きている者が、果たしてそうできるだろうか？　だからこそ先生は、身体的・精神的・社会的・宗教的という全人的支援の充実を話されたのだろう」と考えさせられました。

桜花小4年　下重晴菜　作

現代のお寺に求められるのは、単に風景としての伽藍（建物）ではなく、グループホーム等のように「寄り添うことの大切さを感じ合える」活動が必要ではないかとおっしゃって、講演を終えられました。

（広報／東栗原地区　北村信也　記）

振る舞いや所作の美しさに学ぶ――室町時代の文化の体験

本校では、6年生が室町時代の文化を体験するようになって4年目になります。

地域の方をお招きして能や華道、茶道などの伝統文化を教えていただきます。

この体験のなかで子どもたちは、長い間受け継がれてきた振る舞いや所作を学びます。普段足音が響くような歩き方が、背中がすっと伸びてしずしずと摺り足に変わっていきます。そして、どの体験でも終わると「ふうっ」と緊張を解きほぐすようなため息がでます。

静寂のなかでの体験は、その場の雰囲気を感じた行動への気付きともなっているようです。

（長門小学校　林正明校長　記）

自立支援活動――中国帰国者に対する支援　その3

やっとの思いで祖国に帰国したものの、高齢となった残留婦人は、日本の年金に加入できなかったため、老後の蓄えもなく、また、残留孤児は中国で育ったため、日本語を十分理解できず、就労が難しく、安定的な生活ができませんでした。日本になじめず、中国に帰ってしまった方もいます。

こうした状況で、国を相手どり、残留邦人の早期の帰国と帰国後の支援を怠ったとして、全国で訴訟が起こされました。裁判では、国が勝訴するケースが多かったものの、当時の安倍首相の決断と衆参両院での全会一致の議決により、2008（平成20）年4月から新たな支援策がスタートしました。

六木小5年　木下景虎　作

この支援策は、次の3つの柱からなります。

1　残留邦人には、満額の老齢基礎年金を支給する。
2　公的年金によっても、安定的な生活ができないときは、生活支援給付を支給する。
3　地域社会において、中国残留邦人が地域の中での理解、支え合いなど地域で安定して生活できる環境を構築し、それぞれの状況に応じた支援を実施する。

3については、行政と地域の皆様が協働して取り組む必要があります。区では、2月に渕江地区と鹿浜地区で、中国帰国者等の方々、民生・児童委員、町会・自治会の方々との交流会を実施しました。

中国帰国者等の方々が、「日本に帰ってきて本当によかった」と思っていただけるように、今後もこうした取り組みを区内各地で進めてまいります。

民生・児童委員の皆様におかれましては、今後の中国帰国者との交流会への参加や、普段の活動の中でのご理解とご協力をお願いいたします。

（足立区福祉部自立支援課　記）

町かど福祉　その2

銭湯

「ふれあい遊湯（ゆうゆ）う」という事業を聞いたことがありますか？　足立区が独自に行っている地域支援事業で、高齢サービス課の介護予防事業の一つでもあります。介護保険導入後、平成14年4月から、事業所「東京高齢協のぞみ」が委託を受けて、銭湯を会場にしたミニ・デイサービスが発足しました。これに賛同する銭湯が10カ所の会場になり、3カ月間の月・火・木・金・土曜日のうち週1回、参加者が10～14時の約半日を楽しく過ごすという場です。

さて、足立4丁目曙湯の現場取材では、参加者の体温・血圧測定から始まり、カラオケ・将棋などを楽しんでいます。今日は、曙湯会場の最終日。演芸達者な人が民舞・カラオケ・デュエット・フラダンス・盆踊りなど、本人も見る人も楽しく過ごしました。12時からは、全員で昼食です。事業所手作りの味噌汁付きでした。

参加者の言葉です。90歳代のHさんは、興本からバスを乗り継いで「のぞみ温泉」を毎日利用。80歳代のKさんも、千住桜木町から毎回参加。近隣の70歳代のSさんは、カラオケに合わせてのダンス、踊りの動きがとても若々しかったです。皆さん、「入院したくないから」「生きがい」「廃止しないで」「沢山の人が利用して、来てくれた方がいい」等々、まさしく介護予防そのものです。

13時から入浴、料金は200円。参加者は、かなり早い時期からこうした情報を取り入れて、自分の楽しい日々と時間を過ごしているとのことでした。

（広報／6地区　森春枝　記）

さくらにゅーす

民生委員チーム　遂におりづる杯で優勝

昨年行われたおりづる杯でうれしいニュースです。精神障がい者作業所や保健総合センター等の団体と民生委員とで競われるおりづる杯で、民生委員チームが優勝しました。おりづる杯とは、ファミリーターゲットボールという足立区独自のスポーツで、得点の描かれたシートの上に、ボールを落とし合計点を競うものです。なかなか得点の所に止まらず、行き過ぎたり届かなかったりします。チームワークが試されますが、いざとなると力を発揮する我がチームは、素晴らしい優勝杯をいただきました。この優勝杯に恥じないスポーツマンシップをこれからも誓います。

（広報/10地区　川島恵美子　記）

足立区は活動記録提出100％継続中です

介護ってなあに　エンディングノート　シリーズ第3回

前回、エンディングノートを①「もしものとき」②「亡くなったとき」③「私の人生」の3部に分けました。今回はその中、①「もしものとき」についての書き込み事例を紹介いたします。

▶ 介護について　●誰に介護をしてもらいたいか（配偶者や家族・医療従事者・ケアサービス）●どこで介護を受けたいか（自宅・病院・施設）●認知症や高齢で、自立生活が困難になった時の希望（成年後見人制度を希望・家族に任せる）

▶ 告知について　「知りたい」「知りたくない」に分かれるかもしれません。しかし、自分の人生、“いのち”のことであれば、知ることが大事ではないでしょうか。告知を自分だけにして欲しいか？　家族や親しい方を交えて話して欲しいか？　どちらにしても、家族や親しい方に迷惑をかけるのではないかといらぬ心配は無用と思います。家族を、友人を信じましょう。

六木小3年　鳥屋尾明日香　作

▶ その他　「延命処置」「臓器提供」「献体」「解剖」を希望する、しないを意思表示しておいたらどうでしょうか。

▶ 災害について　誰に援助してもらいたいか、また緊急連絡先をしっかりと決めておくことが大事だと思います。遠方の身内の方も連絡先を明記する必要がありますが、日頃から身近な方や隣近所、町内の方とのコミュニケーションを大切にしたいものです。近年、日本では、自殺者が年間3万人を超えております。その中には、治る見込みのない病になり、その病で亡くなるのではなく、絶望のうえ一人で悩んで、自ら死を選ぶ方もおられます。

あなたはどうですか？　自分は大丈夫とたかをくくっていませんか？　エンディングノートは、あらためて自分や家族など、他の“いのち”を見つめさせてくれるのではないでしょうか。

（広報／東栗原地区　北村信也　記）

足立凧まつり

毎年、秋の初めに荒川河川敷の虹の広場に、たくさんの手作り凧が揚がる日があるのをご存知でしょうか。「足立凧まつり実行委員会」が主催し、日本の凧の会、足立区教育委員会、NPO法人足立フォーラム21との共催で進めている「足立凧まつり」を紹介します。

子どもたちに、日本の伝統的遊びである「凧揚げ」の楽しさを味わってもらうことと、「和凧作り」による親子のふれあいを目的として、平成12年より毎年10月初めに開催されています。

「手作り凧」は小学生が対象で、学校単位で募集が行われていて、子どもたちは、夏休み中に制作した凧を揚げています。毎年8月第4土曜日には、足立区立千寿本町小学校で凧作り講習会を開催しています。

難しい「和凧作り」を通して創意工夫をしながら取り組む姿には、頼もしさも感じられます。10回目となった今年は、残念ながら雨で「凧揚げ」は中止となり、「手作り凧」の審査のみ行われました。

お話をうかがうと、「凧まつり」への参加は「手作り凧」だけとは限らないそうで、どなたでも結構とのことです。

皆さんも一度は参加してみてはいかがでしょうか。

（広報／5地区　薮下奈穂美　記）

中学生俳句川柳コーナー

思い出は　花火がいろどる　夏景色
二年　飯塚　剛

かき氷　はしやいで食べる　子供達
二年　東　駿佑

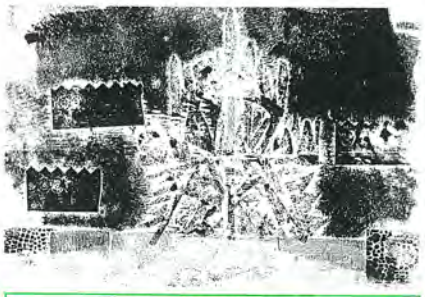
仏壇の　スイカ睨んで　お線香
二年　小林　由季

ひとときの　安らぎおぼえる　夏の風
二年　松井　陽介

夕焼けに　自分を写し　深呼吸
二年　山田　有樹

真夏日に　耳を撃(つんざ)く　蝉時雨
二年　篠﨑　航也

足立区立第十中学校



桜花小3年　森幹太　作

「さくら」を読んで、お褒めいただきました

（中田連合会長宛にいただいたお手紙を一部抜粋し、掲載致しました）

『さくら』の各号を拝読させていただき、各号とも、狭い意味での民生委員児童委員活動報告ではなく、足立区の地域と文化、そこで活躍なさっている住民の方々の広場になっていると思いました。それぞれの記事に有用性と温かみがあり、地域の方々にはとても親しみやすい内容になっているのではないかと思います。

このような多面的で豊かな記事を毎号発行しておられることについては、かなりの情報源と協力体制をもっていなければ難しいだろうと感じました。関連して、広報部会がとてもしっかりしており、明確な役割分担が出来上がっていると感じました。みなさまのご努力・ご研鑽に改めて敬意を表させていただきます。

2009年10月23日

東京都民生委員児童委員制度検討委員会会長
東洋大学社会学部　小林良二教授

第15回タウンウォーキングに参加して

当日は、晴れ晴れとした心地よい幕開けとなりました。会場校の中川東小学校校庭には、早朝からゼッケンを付けたお子さんから大人の方まで総勢373名が集まり、賑わっています。参加者の安全と歩行誘導の役員の方々に見守られながら、目的地の水元公園へとスタートです。周りを見渡せば、373名の長蛇の列に心が高鳴り、足取りも軽快になります。中川を見ながら飯塚橋を渡り、ポニー広場で喉を潤し、しばしの休憩。ここまで来たら残り半分。子ども達からは「まだ着かないの？」「お腹すいたよ」と言う声や、ただひたすらに黙々と歩く人、頑張ろうと声を掛合いながら歩く親子。ポプラ並木を通り、ようやく公園に到着。黄葉した銀杏のきれいさに疲れも忘れ、背負ったリュックの中から手作りのお弁当を取り出し、皆で輪になって美味しくいただきました。昼食後は、紙飛行機作り、○×クイズ、ビンゴゲームをして盛り上がり、皆の笑顔がとても良かったです。帰路も事故も無く無事にゴールに着きました。

昨今、周りには、コンビニが増え、何でもすぐ買うことができ、また交通の便も良くなり、数分足らずで行けるのです。その中で、自力で汗を流し歩くこと、また辿り着いた時の達成感や感動は、貴重な体験であると、改めて感じた一日でした。

（青少年対策佐野地区委員会　内田悦子委員　記）

編集後記

私は広報部に選出され、編集の仕事を担当して2年になります。年3回発行の広報紙作りを、月1度、25名の部会員とともに、区役所の会議室で行っております。福祉に関わることや町の出来事、教育や区の行事など、15項目ほどの記事を、みんなで提案し、話し合います。また、小・中学生の絵画や俳句選びなど、楽しい雰囲気の中で、真剣に取り組んでおります。

私自身も、記事を出して、素人ながら広報紙に載せていただきました。今後も自分のできる限り、頑張っていきたいと思います。

（広報／17地区　　石鍋昭男　記）

訃報　第七合同　花畑地区　近　靖（コン　ヤスシ）　殿　謹んでご冥福をお祈りいたします

小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、
第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしています。

皆様の原稿を募集いたします（原稿は未発表のものに限ります）　次号発行予定日　7月1日
原稿に関しては紙面の都合がございます　事前に地区広報委員にご相談ください

広報部会

部会長　髙野　季
副部会長　宮本勝男
会計　川島恵美子
編集　渡邊照美　細井力造　森　春枝
校正　田中榮一　秋本雅信
編集委員　池田信江　楠美順二　阿部美代子　石鍋昭男　山下節子　北村信也
校正委員　下田尚保　大久保義子　大木ヨシイ　清水千鶴　河邊セツ　井上みよ子　薮下奈穂美　江川せつ子　北川富美子　鈴木重子　粟野昌子